

# 近畿納税貯蓄組合総連合会長賞



## 受け継ぐ想い

和歌山県立古佐田丘中学校 三年 山本 志乃

一九三七年に建てられた、南北に続く八十九メートルの廊下がある築八十八年の木造平屋建て、三千五百平方メートルを超える大規模な校舎は、十五センチ角のヒノキの柱が八百本も使われ、筋交や方杖を多用し、耐震耐風への工夫がなされた歴史的価値の高い建造物だ。二〇十四年には国の重要文化財に指定され、今年度開校百五十周年を迎える、高野口小学校。それが私の母校だ。

古佐田丘中学校に進学し、校舎は鉄筋コンクリート造の四階建てになつた。小学校が大規模な平屋だつたため、最初は校内に階段があることや別棟があることすら新鮮だつた。しかし中学生生活に慣れるうちに記憶も薄れ、小学校のことを思い出すこともほとんどなくなつた。そんなとき、妹から今年度で五十周年を迎えることを聞いて、ふとあの六年間を過ごした木造校舎を思い出した。

趣のある外観や、高い天井から吊るされた廊下の白熱電灯、木枠のガラス窓に、出入り口の木製建具。トイレは全て洋式便器が備えつけられ、校舎はバリアフリー。築八十八年を迎えるというのに中身は新しく、よく手入れされた。改めて思い出してみると、とても珍しく、良い学校だつたなと思つた。

気になって調べてみると、建築費用の半分以上は、当時の地元の有力者や住民の寄付で賄われたそうだ。驚いてみると、それを維持しているのは、みんなが納めた税金なのだ、と母が教えてくれた。平成二十三年に完了した高野口小学校の改修・改築工事の費用はおよそ六億六千三百万円。これらは通常、市町村や都道府県の予算、国の補助金から捻出されるのだ。その財源は私たちの納めた税金。だから税金は大変だけど、大切なものなんだよ、と母は言つた。

更に小学校が国の重要文化財に登録されたため、その修理などには国庫補助金が交付されるようになつた。昔の高野口町の人々が力を合わせて建てた小学校を、この先の未来に繋げていくために、多くの税金が使われていたことがわかった。私たちがあの素晴らしい小学校で過ごせたのは、たくさんの人々の支えがあつたからだ。今回、税の勉強をすることで、高野口町の昔の人々と人々のつながりを感じ、それに気付くことができてよかつたなと思つた。

税金は、私たちにはあまり関係がないと思っていた。何に使われているかもわからなかつた。しかし調べてみると、みんなが納めてくれた税金で、教室にエアコンが設置されたり、タブレット端末を貸与してくれたり、身近なところにも多くの税金が使われていることがわかつた。

私たちが安心して勉強できるように、大人たちが守ってくれているんだということを知つた今、私も大人になつて働くようになつたら、きちんと税金を納めようと思う。